

平成21年度 第4回 宇都宮市行政改革大綱策定懇談会 会議記録

◎日 時 平成21年11月24日（火） 午後5時～午後7時

◎場 所 宇都宮市役所 14A会議室

◎出席者 【委員】

青木委員，井澤委員，石島委員，上山委員，金枝委員，菊嶋委員，齋藤高藏委員，
添田委員，遠井委員，中村委員，野崎委員，藤本委員，松本委員，水沼委員，
和田委員 （50音順）

【事務局】

行政経営部長，行政経営部次長，行政改革課長，行政改革課課長補佐，
行政改革課係長，行政改革課担当

<※ 欠席 井原委員，齋藤公司委員，森崎委員>

◎会議経過

1 開 会

2 会長あいさつ

水沼委員（会長）

- ・ 大変お忙しい中，お集まりいただきありがとうございます。
- ・ この懇談会，これまで3回の会議を重ねてきたが，本日はこれまでの論点，議論を整理しつつ，大綱の概案を取りまとめる方向で進めたい。
- ・ 委員の皆さんからは，是非，積極的な御意見をいただきたいと思う。

3 委員紹介

4 前回の懇談会における主な委員意見について 【資料1，参考資料1～3】

委員

- ・ 次年度以降，行政改革の成果としての経費削減効果の整理について。経済環境が，平成19年度までと平成20年度以降とでは大きく違うという点に留意し，経済環境が変わったなりの削減効果の整理に心掛けてほしい。

- ・ 例えば、経済状況の悪化により、失業者が増加している状況においては、新たな景気対策が必要となり、それを実行すれば、必ず、新たな資金需要が発生する。このような環境の変化に応じた重要施策の実行という背景を踏まえた成果の整理があるべきではないか。つまり、景気対策に積極的な団体ほど削減効果が小さくなり、消極的な団体ほど削減効果が大きくなるという、単純な数値比較については、慎重になるべきだと考える。

委員

- ・ 今後、改革の成果を整理・公表する際には、市民により理解してもらうため、比較指標を設定した上で、自治体としての「強み」と「弱み」を自己分析することを検討願いたい。
- ・ また、透明性や公平性を確保するという観点から、自らによる整理のほか、報道機関や大手シンクタンクなど、第三者が取りまとめたものも参考にし、必要に応じて、その内容を取り入れることも検討してはどうだろうか。

委員

- ・ 都市の状況や特性により、数字の持つ意味は変わってくる。豊田市のように原因がはっきりしている場合であればいいが、対外的には把握できない理由により、経費が非常に少ないというケースもあるかもしれない。数字の背後にある状況をすべて把握できない中で、他市比較や評価を行うのは、難しいかもしれない。

5 議 事

(仮称) 第4次行政改革大綱の概要について 【資料2, 参考資料4】

委員

- ・ 前回は話題になった「最少の経費で最大の効果」という表現。「さいしょう」の「しょう」という字は「少ない」でいいだろうか。「さいだい」、「さいしょう」という場合には、やはり「小さい」の方の字が自然ではないだろうか。

事務局

- ・ 地方自治法上で「少ない」の漢字が用いられているため、今回は「少ない」の表現を採用した。

委員

- ・ 言葉遣いとしては、地方自治法が云々という点にはこだわらなくてもいいのではないかと。
- ・ 行政用語は難しいので、市民が分かるような文案であったり、言葉遣いであったりした方がいいと思う。

事務局

- ・ 御意見を踏まえて、市民の皆さまにも分かりやすくなるよう、再度、言葉を検討したい。

委員

- ・ 基本的な枠組みには賛成。細かい部分で2点、意見したい。
- ・ 1点目。「市民の力の発揮」の部分に「民間活力導入の推進」が位置付くことに違和感を覚える。「民間活力」や「指定管理者」というと、普通は、企業が受託者となる場合が多く、一市民がその力を発揮できる領域は少ないのではないか。
- ・ 2点目。それぞれの改革の柱に付されて副題がとてもよい。「時代を乗り切る」であるとか、「3S」であるとか、「入るを量りて」であるとか。その中で、改革の柱1の副題「自治の仕組みの『構築』から『定着』へ」が、他の3つと比較して、弱く感じる。例えば、「市民パワー全開へ」など、踏み込んだ、より目を引く表現としてはどうか。他の副題がすごく光っているだけに、柱1の副題だけ、総体的に浮いているように感じる。

事務局

- ・ まず、1点目について。この大綱では、「市民」を、個人としての住民だけではなく、地域団体やNPO、企業組織など、本市のまちづくりに関わるすべての人や団体として考えている。
- ・ 次に、2点目について。御意見を踏まえて、引き続き検討をして、全体としてバランスをとれるよう表現を検討したい。

委員

- ・ 改革の柱の副題の3番、「3S市役所の実現」について。3Sとか5Sというのは、世間で使い古された感があるので、別の表現を検討してはどうだろうか。
- ・ 改革の基本目標の2行目の「市民感覚に基づく市民主役の行政経営の実現」について。「市民」という表現が、少しくどく感じる。「市民感覚」という部分を強く打ち出すのであれば、「市民感覚に基づく」という表現を前に移動するなり、あるいは、その言葉自体を削除するなりしてはどうかと思う。
- ・ また、基本目標の副題に、「市民福祉の向上」とあるが、具体的な取組の中で言葉が出ていない中で、取組を総括する基本目標の中に「福祉」という表現が唐突に入ることに違和感を覚える。

事務局

- ・ 御意見を踏まえ、より分かりやすい表現、全体バランスの保った表現を検討したい。
- ・ 特に、「市民福祉の向上」における「福祉」の表現については、保健福祉の「福祉」ではなく、

多くの人の「幸せ」との意味合いで用いている。ただ、一般的に「福祉」と聞けば、扶助関係の福祉を連想するのも事実であり、例えば、「市民生活の向上」など、別の表現を用いることを検討したい。

委員

- ・ 例えば、策定の趣旨の6行目。「地方分権改革の推進を踏まえ、みずからの判断と責任」云々の表現。これは、どこの自治体でもそのまま使える普遍的な表現であるので、この「市民」という言葉を、例えば「宇都宮市民」と変えてみてはどうか。
- ・ つまり、「自らの判断と責任のもと、『宇都宮市民』に一番身近な基礎自治体として、『宇都宮市民』の皆様のご知恵と工夫と参加によって、地域に最もふさわしい公共サービスが展開され・・・」に修正するというように、「市民」という言葉の頭に「宇都宮」を付けるとともに、全体的に柔らかい表現にすることで、上から目線ではなく、それこそ、市民受けする「宇都宮市民感覚」の表現になるのではないかという気がした。
- ・ このままコピーすると、ほかの市でも全部使えるような感じがするので、宇都宮市の行政改革大綱であることが分かるよう、「宇都宮市」の文言を散りばめつつ、できるだけやわらかい表現で、文章を書くべきと思う。

委員

- ・ ただいまの御意見に、私も同感である。

委員

- ・ 宇都宮市における3次までの行政改革の成果を踏まえて、これからは、自分たちの団体の活動の中でも、具体的に今回提示されているような、「自治の仕組みの定着」、「市民の力の発揮」という部分を大切にしていきたいし、行政からの支援も、可能な範囲で、これからもお願いしたい。

事務局

- ・ 宇都宮市には、「市民活動サポートセンター」において、市民活動団体の活動を支援するとともに、調整機能を提供してきた。
- ・ あわせて、従前の出張所の機能とまちづくりの機能、あるいは生涯学習の機能をあわせ持った地区市民センターを整備し、市民活動を支援する部分はかなり拡充されていると考えている。
- ・ ただ、全市民が同じ視点で市民活動に参加している状況にあるかといえば、これから熟度が増す部分も残されていると思っており、そういった面での今後の行政の役割も、かなりあるのではないかと思う。

委員

- ・ 参考資料4の中の1のところ、「市民主体のまちづくり活動への支援」とあるが、これは具体的にどのようなことを想定しているか。

事務局

- ・ 具体的な取組については、今後、庁内で詰めていかなければならないが、現時点では、39地域それぞれにおける「地域ビジョン」の策定を、市役所の職員が支援をする取組や、その拠点・基盤を整備する取組などをイメージしている。

委員

- ・ 資料2の6ページ、「(仮称) 市政情報コールセンターの設置」という記載があるが、この機能について、現時点でのイメージをお聞きしたい。

事務局

- ・ 市民の皆さまからの問い合わせに対する対応窓口を一元化し、的確な情報を迅速に提供するという機能を想定している。取組の内容から、大綱の中では、市民の立場に立った行政サービスの提供に位置付くものと想定している。

委員

- ・ 大綱の構成について、2点、意見したい。
- ・ 1点目。資料中の「策定の趣旨」と「4 新たな行政改革大綱の策定の必要性」の内容が多少、重複しているので、今後、整理する必要があるかもしれない。
- ・ 2点目。資料中の「3 現状を踏まえた課題」の部分が、資料の構成上、浮いているように感じる。市民が分かりやすい内容にするのであれば、例えば、「4 新たな行政改革大綱の策定の必要性」と順序を入れ替えるなり、「3」と「4」の表現を統合するなりしてはどうか。

事務局

- ・ 御意見を踏まえ、より分かりやすい表現、全体バランスの保った表現を検討したい。

委員

- ・ 「(仮称) 市政情報コールセンター」について。「市政」という表現だと、どうしても「市の政治」をイメージしてしまう。仮称なので、これから正式な名称が決まるのだと思うが、誤解を招かないようなネーミングを検討されてはどうかと思う。例えば、行政情報コールセンターなど。

委員

- ・ 先ほど意見があったが、改革の基本目標の副題の「市民福祉」について。先ほどの事務局説明で、いわゆる生活福祉的なものとは違うということは理解できるが、一般的な理解として誤解される可能性があるので、表現を再考してはどうかと思う。
- ・ この基本目標は、改行されてはいるが、「効果的・効率的に対応できる行政経営」、「市民感覚に基づく行政経営」、「市民主役の行政経営」という3つの意味が込められているのだろうと思うので、最終的な成果品にするときには、1行にした上で、句読点で区切る方がいいと思う。
- ・ 情報として、税理士会では租税教育を進めている。今後、行政改革を進める際、具体的な取組を検討する場面で、何らかの参考になればと思う。

委員

- ・ 市民に分かりやすい大綱にするためには、全般的に表現を簡潔にすべきだと思う。事務局がいろいろ書きたい、盛り込みたいという気持ちも分かるが、長い文章、回りくどい文章は、市民にはあまり好まれないと思う。

委員

- ・ 行革では、経費削減を第一に考え、効果を上げている。その際、非常勤職員等を多く雇用すること自体はいいが、やはり正規職員と非正規職員の役割分担を明確にすべき。同じ働きをして、給料が多い人と、少ない人がいることには理解が得られないはず。職員の心や身体に配慮した経費削減の取組を期待したい。

委員

- ・ 改革に向けた取組の進捗状況を測る基準はいろいろとあると思うが、それをどの程度、今回の大綱本体に組み込むのかについては、検討の必要があるのではないだろうか。

事務局

- ・ 進捗状況の指標については、資料5ページの「取組目標の設定」に記載したとおり、大綱の下に整理される具体的な取組ごとに、可能な限り数値目標を掲げ、どの程度、取組が進んだかを、毎年度、整理していきたいと考えている。

委員

- ・ 大綱の推進にあたり、次年度以降、推進懇談会を立ち上げ、5年間のそれぞれの年次における進捗の確認や、具体的な取組を掲げた計画の見直しを行うことになろうと思うが、その際には、

この大綱自体の中に、そのベースとなる大きな目標値を定めてあった方が進捗管理しやすく、また、分かりやすさにもつながると思う。

委員

- ・ この大綱策定の懇談会の中で、例えば、「定員適正化の推進」について、数値目標を詳細に定めようというのは難しいのではないかと。委員にそこまで求められたとすれば、我々が行政のすべてを知る必要があり、そのためには、2年、3年はかかってしまうかも知れない。

委員

- ・ これまでの議論の中でも、具体的な取組について、数値目標が設定できるものについては、可能な限り、設定したいとの回答が事務局から出ていたので、だとすれば、大綱自体の中でも、ある程度、数値目標を持った方が分かりやすいと思う。

委員

- ・ 私は、大綱というものは抽象的な表現にならざるを得ず、大綱に基づく具体的な取組については、この大綱の後に、別に作成すべきだと思う。
- ・ 大綱自体に目標値を設定するという問題意識はすごくよく分かるが、数値目標を出すというのは逆に縛ってしまうことにも繋がり、すごく怖い。
- ・ 大綱の文面だけを見れば確かに抽象的で、御指摘のとおりであるが、大綱とは「改革の大きな方向性」を掲げるものである中で、この中に具体的な数字を設定するというのは、意義はあるが、難しいのではないだろうか。

委員

- ・ 数値目標は、来年以降の具体的な取組それぞれに設定されるべきものであり、この大綱策定懇談会の中で、果たしてそこまでやり切れるのか、私には自信が持てない。その点については、来年以降の推進体制、推進方法の中でカバーしてくれるだろうと思う。
- ・ この大綱の中では大枠までを提示した上で、来年以降の推進のための組織、歯車が具体的な取組の推進状況をチェックすることとしてはどうだろうか。

委員

- ・ 改革の基本目標に、「市民生活を確実に守る」という趣旨の表現を挿入することを検討すべきだと思う。
- ・ 昨年来の世界規模の経済危機の影響により、この5年間は社会環境が大きく変わる、激動の時

代に突入することになると思う。

- ・ 急激な景気後退に伴い、政府・県の機能や行政能力が落ち、いろいろな形で政策が混乱することが見込まれるが、そうなる、そのしわ寄せの部分が市民に直接降りかかってくるのが懸念される。その結果、市民に余力がなくなり、その活動が停滞するのではないだろうか。いや、実際には、既に停滞しているかもしれない。
- ・ また、北関東自動車道の開通は、都市間競争の激化を促し、選ばれる市とそうでない市の二極化を進めるかもしれない。
- ・ このような激動の時期にあればこそ、市民生活の最低水準に係る部分は確保するという強い意気込みを市には、是非、持ってほしい。
- ・ このような混乱の中でも、スリム化を進めるべき部分はもちろん削減・効率化していかなければならないが、スリム化を進めるべきではない部分、例えば、市民生活の根本に係る部分については、きちんと対応していくという内容を、この第4次行政改革大綱に盛り込めればよいと思う。

事務局

- ・ 御意見を踏まえ、今後、資料の内容の検討を進めたい。

6 その他

- ・ 第5回懇談会のスケジュール確認について
- ・ 追加意見の受付について
- ・ 議事録の作成について

7 閉 会